

JP A-Sho52-93930

"Method for discharging electrolyte of a wet-type
reserve lead battery"

2. Claim

A method for discharging an electrolyte of a wet-type reserve lead battery, comprising discharging the electrolyte under a reduced pressure after charging the lead battery.

⑬日本国特許庁

⑭特許出願公開

公開特許公報

昭52—93930

⑮Int. Cl.²
H 01 M 4/23

識別記号

⑯日本分類
57 C 17

庁内整理番号
7239—51

⑰公開 昭和52年(1977)8月8日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑱湿式即用鉛蓄電池における電解液排出方法

⑲発明者 星野寿

東京都新宿区西新宿二丁目1番
1号新神戸電機株式会社内

⑳特 願 昭51—9530

㉑出 願 昭51(1976)1月31日

㉒出 願 人 新神戸電機株式会社

㉓発明者 下田雅一

東京都新宿区西新宿二丁目1番
1号

東京都新宿区西新宿二丁目1番
1号新神戸電機株式会社内

㉔代理人 勝木式朗

明 細 書

1. 発明の名称 湿式即用鉛蓄電池における電
解液排出方法

2. 特許請求の範囲

鉛蓄電池の充電後減圧状態で電解液を排出せ
しめることを特徴とする湿式即用鉛蓄電池にか
ける電解液排出方法。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、充電後電解液を排出せしめて保存
を行なう湿式即用鉛蓄電池における電解液排出
方法に関する。

極板を製造する段階で充電処理を施し乾燥し
た充電済み極板を組み込んだ鉛蓄電池は、電解
液を注入すれば直ちに使用可能な状態となり、
一般に乾式即用鉛蓄電池といわれている。これ
に対して、極板を電池に組み込んだ後充電処理
を施し、充電後電解液を排出せしめて使用時に
再び電解液を注入する鉛蓄電池を湿式即用鉛蓄
電池という。

上記の湿式即用鉛蓄電池は、電解液を排出後

長期保存をする場合電解液が電池内に残存して
いると、自己放電を引き起して容量が減少する。
したがって、長期に渡り保存する場合は、排液
後電池内部に残存する電解液はできるだけ少な
い方がよい。

従来の湿式即用鉛蓄電池においては、電解液
の排出は、電池を転倒して行なっていたが、こ
の方法では排液が充分でなく約50パーセント
程度しか排液が行なえなかったので、長期保存
を行なう場合自己放電による即用性能の劣化が
著しかった。

本発明は、気圧110乃至20mmHgの減圧
状態で電解液を排出することによって電池内部
に残存する電解液をより少なくし、保存中の自
己放電をできるだけ抑制して保存後の即用性能
の劣化を防止しようとするものである。

本発明により排液を行なうと、電池内部に存在
する空気や、充電時に発生した水素、酸素など
の気体が、気圧の低下によって膨張して、転倒
法では排液されずに電池内部に残存していた電

解液を押し出すので、電解液の排出を容易にし、従来の転倒法に比べ数パーセント乃至10パーセント多く電解液の排出が可能となる。

上述のように本発明は直立状態で転倒するなどして電解液を排出するので、従来の転倒などだけで排液した場合に比べ排出される電解液量が増大し、保存中の自己放電の割合が少なくなるので保存後の即用性能の劣化が抑制される。

特 許 出 願 人

新 神 戸 電 機 株 式 会 社

代表取締役 石 垣 武 三 郎

代 理 人 鈴 木 式 会 社